時事新報は編輯に關する書信にして往々社員へ宛て送致れ向も有之候得共宛名の社員不在の事ありて折角の報道も其用を爲さゞると寡からざれば斯る書信い一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價送料廣告料へ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓

〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ右等價ノ外ニ一箇月二十六銭ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
百一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢八厘
百十一行百廿行	九錢	七錢	六錢	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢

時事新報

新開地の免税期限

國の經濟と政府の經濟とい決して殊別のものに非ず蓋し政府は國と維持するの權關あれば既ま國を富ます上は假令へ政府の收入を增加せざるも之に滿足せざる可らざるの理に等しく之を逆にして若しも國の貧弱を來すとありてい政府の收入多しと雖も毫も目出度事相にならず例へバ納税多しとて喜び、少なしとて憂るは政府部内の經濟に照らして喜憂もとなれとも一國の經濟上より見れば唯右より左に轉するまでの事ゑして左に增すは右に減するが故のみ納税の多少は實際に於て政府の喜憂とするに足らざるなり將ま又人民の方より見るも同樣のとゑして世間に國庫金の補助を得たりとて其有り難きゑ感佩するものあり其當局者の仕合には相違あしと雖も更ゑ着限の點と變して考ふれば國庫金は即ち是れ人民各自の資財にして其人民の手ゑ入るは自ら出して自ら取るに異ならず國外より新たに來るものに非されば左まで喜ぶに足らざるを發明すべし即ち一國の富は政府の富ありと云ふべきのみ

以上の如き議論なしとして愛ゑ我輩の所望せんとするは新開地の免税期限を延期せるの一事なり例へば海面を埋立て〻新地を開くには鉄下二十年間租税を免除せるの約束あるとも二十年間のみにては資本家の勘算疑はしき所あるが爲め容易に之に着手すると能はず目前に利益ありと知りつ〻も空しく資本と抱いて海を眺むるの外なし中には海の模樣により實際工事も容易にして傷失相償ふもある可けれども亦或は然らずして當に工事の困難のみならず成工の後、尚ほ不時の天變も測り難き所に至ては前途の望、懸念ゑ堪へざるものありて[illegible]行の今日ど雖も敢て此危險を犯すもの少なきが如し蓋ま政府が新開地の免税に期限と定めたるは日本國中土地あれば愛に税ありとの主義に基することならん我輩とても敢て此主義に反せんとするには非ざれとも猶に云へる國利即ち官利なりとの觀念に滯きを置き國の利益を起すが爲めには其利益の政府に到來する時節の遲速は問ふ可きに非ずと覺悟して右二十年れ免税期限と五十年若くは六七十年とも爲さば政府は一錢[illegible]さずして實本家は無限の採護を被りたるの思を[illegible]西ゑ新開を企起して事業の結果必ず憂ある可ら[illegible]者の爲に病ゑ衰望する所等ものなり我國の內海[illegible]て海上建設にして堅立ゑ適するの地所甚だ多し[illegible]往本の成績に照らすも書籍の頃中國筋にて新開しさるものは今い既ま〻熱して永平一面の美田渺茫として之を望めば尾花が末に白雲の懸るを見る所少なからず斯る有益なる事業をして唯免枕期限の永からざるが爲め續々勃興すると得せしめず空しく無一物の蒼海として委棄するは誠に遺へ難き次第と云ふべし之を開けば美田とあり之を捨つれば海水のみ滄桑の變何ど必ずしも天功を待たんや指得顯然として決して疑[illegible]すべきに非ざるのこの年々人口の增加するに隨ひ限りある國土の內にて自ら活路ゑ迷ふものあるを期す可らざれば此際海外の移住も亦要用ありと雖も耕地を增加して國富を興し以て之と支ふるの方便は至大ありと云はざる可らず左れば政府は成るべく之を優待ゑて遠に無税することを爲さず充分の餘裕を與ふるこそ得策あるべし且つ又我輩の所國とても未來永劫免税せよとの意味には非ずして唯餘ふて之に着手せるを得せしむる迄のことなれば他に對して毫も不公平の嫌あるも可らず誠に一點の瑕瑾ゑ免税ゑ利益餘りあるものありて若ま、も鉄下五六十年を免税ゑ利益餘りあるの次第ともならば農民は曾て來の田畑を棄て、新開地に走り新地の農事の盛なると共に舊地は荒蕪ゑ歸せ可しとの說あれども元來新開の事たるや假令へ鉄下の年限長きにもせよ資本家が其起業に現金を投ずるゑい多少の危險あるを得ず既に此危險を犯して失敗すれば夫れまでのとなれども首尾能く功を奏して良田と得んゑ起業者の大利益にして獨り之を專ゑす可し即ち冒險の報酬なれば既成の新開地を人に賣るにも貸すにも其近傍普通の制合に從て特に會釋するに及ばず新地に限り鉄下の免税あれば其免税の見込を以て買置し借すすべき が故ゑ他の農民より見るときは新地舊地の間に特に利不利の別ある可らず物價自然の妙機、新地開發の爲めに舊地を荒らすの憂なきは我輩の保證する所ありれは其邊ゑは毫も顧慮するを須ひず一國經濟の大計より鉄下免税の期を長くせんこと切に願望する所なり

雜報

○和蘭新內閣員　去る四月二十日を以て新に組織しある和蘭國の內閣員は左の人々なりと

內閣總理大臣　バロン、マカイ氏(Baron Mackay)
農內務大臣　ヨング、ヘール、シ、ハルトマン氏(Jhr. C.Hartsen)
外務大臣　ヨング、ヘール、ゴダン、ド、ボーガル氏 (Jhr. Godin de Beaufort)
大藏大臣　ヨング、ヘール、ベルハンシュス氏(Colonel Bergansius)
陸軍大臣　寺軍大佐ヂースリング氏(Colonel Dyserling)
海軍大臣　カハイニアスリン氏(Colonel Kamoiruin)
殖民大臣　ハーブラール氏(Harelaar)
水務大臣　ヨング、ヘール、ヨースハアンベーレンブルーグ氏 (Jhr. Jouse von Beerenbrock)
司法大臣

○名譽領事の手當　從來我名譽領事へは肇墨紙料とゑして一箇年銀貨二百弗を支給なし居りしが今後は右手當にて不足の時は年度末には申出の上實費を給する事ゑ改めたるよし

○桑港檢疫の日數　米國政府にては豫ねて支那香港邊りに天然痘の流行ありし居たるより其地方にて汽船に乘組み一者の桑港に上陸して土地に餘毒を蒔かれては迷惑千萬なりとて外船の東洋より入港る毎に嚴ゑき檢査を遂ぐ港內にさし留先ウして唯だ其日數は時ゑより海ますもあり誠は一箇月餘に亞りては法令を出して時日を定め每船必ず二週間港內に止めるみとなし益す〻消毒豫防を嚴重になしたるとゑ然し香港の天然痘は最早其跡を絶ちたれば遠からず桑港の檢疫も止むべしとあり

○日本の銅　七八年前より世界に於ける銅の供給は需用ゑ超過し銅の價額は唯だ下落するの一方にて銅山れ事業は殆んど成立たざるの有樣を呈するに至りたれば英國にある佛國商人の委員組合は銅れ價額を維持せんが爲め世界中の重なる銅山と契約を結び一切銅を賣出すものは必ず該組合の規約を履むべきの制を立てたり申さは該組合は銅の專賣權を握ゑし譯にて依て以て頗る銅れ低落を防ぐを得、今日は寧ろ價額の騰貴を見るに至りしは世人も知る所なるが該組合が斯く銅山買ゑの際に當り獨り殘せしは日本の銅山なり然るに日本銅は常に世界の銅の產額中四十分の一を占め加之智利銅と比して其質さへ劣らざるより該組合の外に立ちて動もすれば銅の價額を左右し折角恢復しさる價の上に多少の妨ありとの事にて今度該組合にては他の銅山と同一なる契約を結ばんと本石の古川製銅所へも掛合中の由あるが同所にては未た何れとも決せざれ共該組合より申出の相場にして不當あらざる以上は直に其求めに應するの意あるよし若し此の契約の整ひし上は多少銅の價に影響と來すならんと云へり

○繭相場　去月卅一日山梨縣甲府市中の繭相場ゑ其前日即卅日に比して上中下共凡ろ二十錢方の下落にて玉込上等二圓二十錢より同廿五錢、中二圓より二圓十錢、下一圓七八十錢位の相場ゑとしされば多少の取引ありしにも拘らず場況は至て沈靜にて尚は一段の下落と生ずべき氣配ゑり尤も製絲家に於ては右の相場にても未ざ引合はず殊に本年の繭は氣候不順の爲にや出來方思はゑからず昨年に比べれば其品位稍や劣れり云々と一昨一日山梨縣下甲府發の報に見ゆ

○電話機架設　文部省より上野公園內の音樂學校へ電話機の架設工事は竣功に至り昨二日試驗れ音信を發ゑたるよし

○神戸電燈會社　神戸築町六丁目ある同會社の新築家屋は最早落成したるを以て愈々諸器械据付ゑ取掛る手筈にて東京電燈會社の技師藤岡市助氏い不日同地へ赴く由又其連線を架設する柱木と樹ることい既に其筋の許可を得たるに依り早速其位置に標木と打立る都合なりといふ

○積荷に米穀少ま　大坂川口より國西各港へ往復の汽船は獨り乘客のみならず貨物も同樣、其賃錢は近來大に下落し居る由にて去る十七八年頃は肥後百貫港より大坂迄運搬する米穀の船賃も百石凡ろ五十五圓位ありしを漸次遞減し現今の處にては百石十八圓內外に迄下落し此內より解船其他の諸費を引去る時は汽船の實收は十一二圓に過ぎざるべきまされと近來米價の下落したるゑ爲め右の運賃にても聽ゑ九州地方より持出しては迚も算露盤玉に當らぬとて出荷を見合せる者多きより九州往復の汽船は大坂に入港の際ゑは米穀を積載し居ると稱なりと云ふ

○天滿八幡南紡績會社　大坂なる天滿紡績會社の建築工事は愈々ゑ排取り既に全く落成したれば是より愈々諸器械の据付に着手する都合ありといふ又右器械据付及び紡績業傳授の爲め去四月より向ふ二箇年間雇入れたる英國技師ヨハート　ホッペッド氏も既に去月二十八日來着し目下中ノ嶋自由亭に投宿し居る由且つ同社より紡績業練習の爲め義に備前下村及び名古屋等の各紡績所へ派遣し慣きたる甘餘名の內、既に習熟したる者十五名を呼び戻し去月廿九日より同社へ出勤せしひるといふ又八幡紡績會社へ請負はし木會社へ注文したるよし

○豪商の相談會　茂樓に於て横濱の蒸の義に付亿相談ありと

○横須賀の在艦　紫、鹿耶、富士山、鯨、清輝(入渠中)去る三十日神戸よ

○宮津教賀間の航復する汽船の航路客荷物は隨分數多て僅少なり是は去が爲めなるべしと

○福嶋の運輸業　業を營む者陸續ま邊陸送店、中央陸運送店の六箇所、社、寺嶋運送店、濱店一軒あり今て繼立賃金は斤に付一里六錢れども近來は暗に引請けんとす斤一錢五厘位なり

○岐阜挑灯　岐阜挑灯と籠商況は產地强氣の多少聽りしゑらず地出來の品寸極上等絹絲飾七十錢、中等五六並物重にして上ば直段も餘程下錢、中十錢內外本るよし籠は菱の一間四十錢より鋼み三十四五三錢、下等二十戸も昨今賣立ゑ錢、並一圓十錢、下等二圓內外に

○苗代の害虫　め一般に生立の又村の苗代にて害虫い非常に苗代田の近傍ゑて其周圍ゑ巡れ